

科目名	情報と倫理 【オンデマンド】				
担当教員名	磯山 友幸				
学部等	全学共通科目	開講学期	2024年度春学期		
ナンバリング	AS-INF1006	学年	1年	単位	2単位
講義名	ネット時代に頻発する様々な問題を通じて学ぶ情報倫理				
先修科目					

この授業を通じて身につける<CUC 6つの能力要素>		(主として身につけるもの「◎」を1つ、身につけるもの「○」を2つ以内)			
専門的な知識・技能		普遍的な知識・技能	○	相互理解・コミュニケーション力	○
チャレンジ精神・実践力		主体性・責任感		社会規範意識・誠実さ	◎
CUC6つの能力要素詳細	https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html				

科目概要
インターネットを使った様々な情報サービスは、もはや私たちの生活に不可欠で、インターネットなしには何事もできない時代になっている。一方で、知らず知らずのうちにインターネットを介した詐欺や犯罪に巻き込まれたり、自らが結果的に加害者になってしまうリスクが潜んでいる。情報化社会の中で安心・安全な生活を送るために、守らなければならない事、それが情報倫理である。本講義では、現役ジャーナリストでもある担当教員が、現実に起きている情報倫理上の問題や出来事をできるだけ具体的に取り上げ、どこにリスクがあるか、それを回避するためにはどう対応すべきかを解説、柔軟に対応できる素養を身につけることを狙う。また、現場で活躍する専門家のインタビューなども取り入れ、現実社会で起きている問題点を知る。

科目の到達目標
情報を扱ううえで必須の知識を知り、インターネット社会で生き抜くうえで必要な倫理観を体得する。ネットを通じた不正取引や詐欺、ネットウイルスなどから自身を守る基礎知識を身につけるだけでなく、著作権侵害や人権侵害など知らずのうちに自らが加害者にならないよう基本的な法令やルールを知る。

授業の特徴 (指定科目のみ掲載)
本科目は、「千葉商科大学・数理データサイエンス教育プログラム(※)」のプログラム構成科目である。 ※文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」認定済み

履修上の注意
オンデマンド形式で講義を行う。配信したPDFファイルを見ながら、音声ファイルを聞く形を基本とする。講義設定期間内にクリッカーを使って質問に答えてもらうほか、ポータルからの課題提出で出欠を判断する。以下の講義スケジュールは一応の目安であり、受講生の理解状況や社会状況に応じて内容を変更することがある。

実務経験を活かす授業	○	実務経験内容等	新聞社での取材経験等の実務経験を活かし、現代社会で必須の情報と倫理の諸問題を扱う。特に、人工知能、マルウェア、ネット炎上などの社会・技術・人間のからむ新しい問題に対応する能力を養う。これを通じて、基盤教育機構のめざすリベラルアーツ教育の一助とする。
------------	---	---------	--

ICTを活用する授業				
資料や課題を配信するためにWebシステムを活用する	○	教員と学生の連絡でCUC PORTAL等を活用する	○	その他

データを活用する授業				
データ分析を行う		外部機関(企業等)のデータ活用する		その他

アクティブ・ラーニングの要素				
グループワーク		プレゼンテーション		実習、実技、フィールドワーク
PBL(課題解決型学習)		双方向型学修(クリッカー等)	○	ディスカッション・ディベート
反転授業		その他		

授業計画			
授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	事前事後学修時間
第1回	講義の進め方や評価方法などのガイダンス。情報と情報社会の特徴を知る。教員の自己紹介と学生の自己紹介文の提出。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第2回	「情報」とは何か、「倫理」とは何か。倫理の素養としての渋沢栄一、福澤諭吉、二宮尊徳と、財界人の「改革の系譜」	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間

第3回	あなたの情報が狙われている（情報流出はなぜ起こる？個人情報とプライバシー保護。ジャーナリストの個人情報収集の実際）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第4回	情報発信とリスクはトレードオフ（自分をPRするメリットと、プライバシー。ストーカー規制法。もしも被害に遭ったなら）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第5回	ネット上の「誹謗中傷」。（誹謗中傷か、正義か、論評か。具体的な事例の検証と法改正）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第6回	ネット上の「誹謗中傷」②（学生の意見のフィードバック、罰則強化と表現の自由。侮辱罪厳罰化。プロバイダーなどの対応策）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第7回	ネット上の「詐欺」と「不正取引」	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第8回	ネット上の「フェイクニュース」と「デマ」（具体的な事例の検証）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第9回	「リツイート」「いいね」と人権侵害	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第10回	著作権保護と情報倫理（知的財産権とは、著作権の種類、著作権侵害訴訟の具体例、著作権の現場）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第11回	著作権と編集の現場（編集に携わる現場の著作権対応など、生の声を聞く）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第12回	デジタルガバメントと個人情報（ビッグデータ、人工知能によるデータ解析を使ったビジネスの現在、未来。AI活用例とプライバシー）	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第13回	AI倫理の現在、そして未来（AIによる顔認証システムと防犯カメラの拡大と、プライバシー、AIが変える？「情報倫理」の基準）	レポートの提出と振り返り。	3.5時間

成績評価の方法	毎回の講義の課題提出やクリッカー参加による授業出席（50%）、ならびに期末レポート（50%）によって評価する。レポートではメディアや他の識者の意見を参照・引用し、自らの意見を導き出しているかに重点を置いて評価する。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義後に提出する課題やミニレポートについて、次回講義の音声ファイル冒頭か別音声ファイルで講評を行う。また、クリッカーの結果なども講義内で説明する。
テキスト・教科書	特に指定しないが、講義内で、適宜、関連図書を紹介、推薦する。
参考文献	講義の中で適宜紹介する